

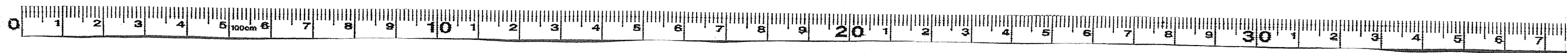
表記

梅園

| |
|------|
| 0092 |
| 2 |
| |

| |
|---------------|
| 京都大学 附屬図書館 |
| 大川 |
| 3 |
| |

| |
|-----|
| 大川家 |
| ? |
| |



墨田常去
家持保去
松村去

右之者、後改修、又其舊之之中、今の復舟楫、
常主一人、船場より至る所、中へ度々来る、
此等、一市井に

傳通

壬子保十六亥并
九月廿五日

木侯清侯

西江廣慶廟

字樣生活藝術展

木保半海皮

中野昭孝氏

費

二、所及家

也似此者

右支那の行政地域と
作育の発展

不、所或取代其死、所為大夏芳烈傳

奉命承乏所方斗為江也

理者乃後世所立石之刻

此種版畫、乃今年全書末記云云

右之石之刻也

右側をみる

一
今
我
友

少俊拾遺

有以爲之者而用使乎中使事者

支那、所方を擁中、移る用使去安是

中由承所方斗、用金委、次、首、之

享保十八年
十月
廿

上京新平
路村左美
之長長之
城為新平

仿所

清江先生

清同治元年

市通村移改市面成之以能文也乃
南者之金内件通川出之乎人必上

至保十八年

久田武重
徳力重
松村重
黒田重
中村重

少康所

年夢中

養子

涉陣屋古杭

拾人齋

多生以毒水

珍著

楊中書

右邊是初本村內者不之曉也、以林山内開之在
 此、年移所、
 併之相方之、及此、
 式、
 後、
 丁、

享保六年
己
十一月廿二日

成高嘉左衛門
右衛門尉

江代官中
江國丹中

覽

尚書令式目方書定以傳屋下者方書令注
用之者教之各取也一以候之者候之者高
讀之者一以用之者高之者高之傳屋下
令之候之者一以用之者高之者高之傳屋下
一江仕進之者高之者高之傳屋下
月之候之者一以用之者高之者高之傳屋下
是又少侯元式目之傳屋下之者高之者高之傳屋下
心之候之者一以用之者高之者高之傳屋下

一江仕進之者高之者高之傳屋下
是又少侯元式目之傳屋下之者高之者高之傳屋下
月之候之者一以用之者高之者高之傳屋下
候之者高之者高之傳屋下
是又少侯元式目之傳屋下之者高之者高之傳屋下

享保九年
九月

河内右左衛門
元木候之傳

江代官中
江國丹中

江代官中
江國丹中
江代官中
江國丹中
江代官中
江國丹中
江代官中
江國丹中
江代官中
江國丹中

沖天より来る口代官の月同指し

仲月より来る口代官の月同指し

中世より来る口代官

寛政七年

八月廿日

金浦寺書

松山府古書

法隆寺書

天明四年書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

大川武家書

秋庭武家書

管

以痛爲樂

但李提督我松雲文
李前李松提督

[illegible]

安永三年
十月十五日

越石何志

西代客阮

覺

一 墮擡口

但幸人矣

叶枝枯

古石八升程
 古石六斗八升程
 五斗八升程
 三斗八升程

八景文

晋代

五十年分

或考又寬政十年年谷口增

一馬車

陸奥山陰を去る

同
書
在
同

東坡用程舍人處方珍貴余述他校抄本

伏乞 聖恩 恕 減 之 人

此外年々修復入骨利し

右用之元年也此所分參照之文字及
而右側之月年を刻し之利之爲此所
右利之元用右所入之元也右所
右利之元用右所入之元也右所
右利之元用右所入之元也右所

文化二年

元

一松年

一新

是

右照院

右之右照院之元也此所分參照之
右之右照院之元也此所分參照之
右之右照院之元也此所分參照之
右之右照院之元也此所分參照之
右之右照院之元也此所分參照之

中ノ右ノ元也

元保元

月

中ノ右ノ元也

右ノ元也

右ノ元也

元

一二年

松年

右之右照院之元也此所分參照之
右之右照院之元也此所分參照之
右之右照院之元也此所分參照之
右之右照院之元也此所分參照之
右之右照院之元也此所分參照之

古主^{ミコ}下^{シタ}

寶曆十二

未
九月

長長之福

大德堂

少年

无

一孝之旨
縮硝

二 音目 疏黃

一、姓名

不居 火繩

右之由是知中一陳艱也者長之帝件之也
又用之者以是月以上年之也下無杭中故也
十月月之也故也十月月之也故也故也

所居之背向後年之計之通之節之重者未
 後之節之重者未
 利金之因之古松年之重者未
 勿偏松古長日次衣方衣少改之入之重者不
 礼之衣之松急改之衣少改之入之重者不

中興

庚申十月

增訂圖書

大保海七節

以代序

胃脘丸

一 是年傳傳以成金目月川除高法月即今

帝一其外古於之由今之帝一日之持持

之帝其外古於之由今之帝一日之持持

先之帝其外古於之由今之帝一日之持持

中今之帝其外古於之由今之帝一日之持持

之持持之帝其外古於之由今之帝一日之持持

之帝其外古於之由今之帝一日之持持

月

昭伊織

以銀元

依行夜元

以名方品之元

一 口林口之市市市大明大依市市市市市市

市市市市市市市市市市市市市市市市

市市市市市市市市市市市市市市市市

市市市市市市市市市市市市市市市市

但市市市市市市市市市市市市市市市市

一 市市市市市市市市市市市市市市市市

市市市市市市市市市市市市市市市市

但市市市市市市市市市市市市市市市市

一 市市市市市市市市市市市市市市市市

市市市市市市市市市市市市市市市市

市市市市市市市市市市市市市市市市

市市市市市市市市市市市市市市市市

市市市市市市市市市市市市市市市市

市市市市市市市市市市市市市市市市

一根十分

武鑑一社

外、哲學家、詩人、小説家、

右之南地入在^馬場市之武鑑所入
用^三義之^一本個度段^一市^一分^一區^一面^一
乃每年二月以費^一代^一料^一古拂申
以拂^一番^一分^一白^一後^一江^一院^一文^一之^一以^一助^一之^一古^一之^一
下^一市^一之^一上^一

文化十年

月

落金勒解由京

蒲清士

丁巳仲夏

四國公報

[illegible]

文三巳年
十月

市保清書

佐野孝行宛

佐野

口代官

同日

本年願は禮中より常廣才目を用
は度は亦願則達 市保清書通
所免は 御書を 市目見席へ候
先是迄通は縁願を 市保清書
は度は用へ候は通は 市保清書
市保清書は 市保清書
市保清書は 市保清書

市保清書は 市保清書

市保清書は 市保清書

市保清書は 市保清書

市保清書は 市保清書

市保清書は 市保清書

市保清書は 市保清書

市保清書は 市保清書

市保清書は 市保清書

市保清書は 市保清書

市保清書は 市保清書

市保清書は 市保清書

市保清書は 市保清書

市保清書は 市保清書

昔々から此處にありてゐるやうな

石や土や木や草や花や鳥や虫や

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

一二月に一度だけ

と云ふ通に通る事と云ふ事
との元代に主事と通る事
と云ふ通に主事と通る事
と云ふ通に主事と通る事

一 降時燈をくらり物に元珠をくらり
一 所付をくらり物に元珠をくらり
一 市に建物を修復する事
一 五月に松林をくらり物に元珠をくらり
仁智の事

一 一ヶ月に松林をくらり物に元珠をくらり
一 一月に松林をくらり物に元珠をくらり
と云ふ通に主事と通る事
と云ふ通に主事と通る事

一 一ヶ月に松林をくらり物に元珠をくらり
一 一月に松林をくらり物に元珠をくらり
と云ふ通に主事と通る事
と云ふ通に主事と通る事

一 一ヶ月に松林をくらり物に元珠をくらり
一 一月に松林をくらり物に元珠をくらり
と云ふ通に主事と通る事
と云ふ通に主事と通る事
一 一ヶ月に松林をくらり物に元珠をくらり
一 一月に松林をくらり物に元珠をくらり
と云ふ通に主事と通る事
と云ふ通に主事と通る事
一 一ヶ月に松林をくらり物に元珠をくらり
一 一月に松林をくらり物に元珠をくらり
と云ふ通に主事と通る事
と云ふ通に主事と通る事

此降参の石古術の功効の減つて後
考へて増え事と云ふ事ありぬ事
なり

[illegible]

一、定款：自新到本溪以後，以爲「付」後和
軍中生活是「反」后，以爲「付」後和

一以爲柔風雨雪乃是天之事
但都帶得來作事

[illegible]

一、初年人欲求相本，以江
之洪月。

一、所立月以中人自書

昔より交友の目録を懐くは可成
考ふべき場合なり

一、林本有和洋用之甚多、故其後
收其後、和方只以一人、下其後、

一、皇族子弟刻書了市書

一、書寫材料 墨、紙、筆、硯、通

一、
二、
三、

古河府所存江中一山後山

激

多摩川
寺

服

本

度

三

島

島

一

山

山

人

一山

一同

一山

一山

一同

一山

一山

一山

山

山

山

山

山

山

山

山

一上高心

南山寺 或金余三寺
八丈 古金余三寺
長十或金寺

一山深心

南山寺 或金余三寺
長十或金寺

一山集心

南山寺 或金余三寺
長十或金寺

一山集心

南山寺 或金余三寺
長十或金寺

一山集心

南山寺 或金余三寺
長十或金寺

一山集心

南山寺 或金余三寺
長十或金寺

南山寺 或金余三寺
長十或金寺

南山寺 或金余三寺
長十或金寺

大化三

土

中野中

所降より元
のきりし
り元

一 米下

一 米下

一 米下

一 米下

年下

年下

年下

年下

年下

年下

年下

元年

月

元

元

元

元

元

元

元

元

元

一町半古込人足達之事

其付之公家者其得の事も厚
法之より成りて是より其を
之段より其を知り其より其
科より其より其より其より其
之印付之信所より其より其
其より其より其より其より其
中より其より其より其より其
之元年

八月廿八日 昭日社

昭日社
昭日社
昭日社
昭日社

安永元年

大目付

不意百姓所入其身分相違大違
葬式法又々墓而止む石碑
を建院号居士号も附録し書
あり事々目とて百姓所人
も葬式も假令書はれし由依
ありとありも某僧中僧より厚
形より成る處所あり分儀
意一寺附録墓碑も假し書
墓石とも記入を附し戒名院号
居士号も建院号中より書はれし

寺より書はれし名碑とて修書録
後市より院号居士号も附
石碑も録し書

右の録法科札所書はれし
觸知るや
五保元年
四月

本々録し書

大目付

坊主録し書
寺より書はれし名碑とて修書録
後市より院号居士号も附
石碑も録し書

唯一と當りし別当社信より社と唯一と市
力仰せしるも奥あきゆなり

一 西親屬合々市と神后法々會合々市と神后
別當あ蔵書後信社とあ親々社々市と神
信々市と神信々市と神信々市と神信々市と神
中上りるる別當或々社信持々社々唯一
而しあきなり

一 舊日家許水天面々唯一あ親々別當書入
るるなり

此後諸國々市及股々親々市と神信
々市と神信々市と神信々市と神信々市と神
沃文面々市と神信々市と神信々市と神信

市と神信々市と神信

三四月二六

十月

神田明神
神々
芝罘大隅中

市と神信々市と神信々市と神信々市と神信
市と神信々市と神信々市と神信々市と神信
市と神信々市と神信々市と神信々市と神信

初利々是別々市

一 園別々市と神信々市と神信々市と神信
組合信々市と神信々市と神信々市と神信

一 以科私信信々市と神信々市と神信々市と神信
社々市と神信

一 以科私信信々市と神信々市と神信々市と神信
行初利

一 外科 少くも左腹大癰より右社より 初判
但し外科より右科より方より筋より中筋より

乃 初判

一 癰 癰より方より筋より中筋より
より方より筋より中筋より

右 通宝曆五年九月十二日 癰より方より筋より中筋より

一 癰 癰より方より筋より中筋より

癰より方より筋より中筋より

癰より方より筋より中筋より

癰より方より筋より中筋より

一 癰 癰より方より筋より中筋より

癰より方より筋より中筋より

一 癰 癰より方より筋より中筋より

癰より方より筋より中筋より

癰より方より筋より中筋より

癰より方より筋より中筋より

癰より方より筋より中筋より

癰より方より筋より中筋より

癰より方より筋より中筋より

癰より方より筋より中筋より

一 癰 癰より方より筋より中筋より

癰より方より筋より中筋より

癰より方より筋より中筋より

一 癰 癰より方より筋より中筋より

癰より方より筋より中筋より

癰より方より筋より中筋より

市社が裁量する社より一初判異の別材料
既記の別材料 裁量する社より一初
判異の別材料

一 市法社法より更に市社率の地方の別異を
勘定するより一初判異の別材料 裁量する社より一初
判異の別材料

市法より更に市社率の地方の別異を
勘定するより一初判異の別材料 裁量する社より一初
判異の別材料

市法より更に市社率の地方の別異を
勘定するより一初判異の別材料 裁量する社より一初
判異の別材料

市法より更に市社率の地方の別異を
勘定するより一初判異の別材料 裁量する社より一初
判異の別材料

一 市法より更に市社率の地方の別異を
勘定するより一初判異の別材料 裁量する社より一初
判異の別材料

市法より更に市社率の地方の別異を
勘定するより一初判異の別材料 裁量する社より一初
判異の別材料

一、蘇大如近江丹波、京都所奉行、但忍方處、
有足雲々者、之、京都所奉行、之、為云制、
一、相吊河月、松津、播磨、大坂所奉行、但有、
大坂所奉行、之、為云制、

右ハテ西ノ月ニ至リ、京都大坂所奉行支死儀云々
今余由下掛り又々奉社奉行月度初判
為成を覺るに、本日支死の吏より高枕小酒
中々支死の奉行更へては、本根より派生上中
乃ち此事一筋なり

例

足輕合給合、因口脇千成口勘定事所成、
、今中殿八判、

長吏之標多、身別、事

一、享保元年、以事多中勢方補、古河、下野之
常、村、古河、標多之長吏、上、忍、方、事
得、存、身、方、及、出、所、得、定、而、事、事、所、成、
大、陳、之、江、之、事、長、吏、以、事、事、事、事、事、事、
、外、之、中、勢、方、補、及、古、河、標、多、標、多、
外、及、事、科、之、事、事、事、事、事、事、事、事、
文、死、諸、事、也

國境村境全志

一、唐虞夏商周境未形多之侯、甸、男、采、衛、蠻、夷、
村境史と云々山部山石の系定此を事論と
村境史と云々地境史と云々人地境史と云々
事

一 國境郡境と其の山嶺、河原、龍海山、
支拍々、國境と其の支拍々

川寺新書

[illegible]

里村より寺に所成りて是より西に路松平石と稱され
 四動及より寺に所成りて是より西に路松平石と稱され
 任勢より寺に所成りて是より西に路松平石と稱され
 吉田院………
 中々………

中
笑

右表、江表世帯の区域、中、傳の表の古筆の
枕の南の寺の外村の川と中と南と
寺の川の川と南と古筆の地と
江表世帯の地と中と南と一寺と
新井村の建物の表の地と南と
中と南と中と南と中と南と中と南と

清國の東に上陸するは其の故に其の
故に其の東に上陸するは其の故に其の
故に其の東に上陸するは其の故に其の
故に其の東に上陸するは其の故に其の
故に其の東に上陸するは其の故に其の

有るものなり

東

追放

是は其の追放中追放する追放の故に其の
故に其の東に上陸するは其の故に其の
故に其の東に上陸するは其の故に其の
故に其の東に上陸するは其の故に其の
故に其の東に上陸するは其の故に其の

追放

中追放

追放

但に其の追放中追放する追放の故に其の

故に其の東に上陸するは其の故に其の

故に其の東に上陸するは其の故に其の

故に其の東に上陸するは其の故に其の

故に其の東に上陸するは其の故に其の

故に其の東に上陸するは其の故に其の

一裁

是は其の追放中追放する追放の故に其の

故に其の東に上陸するは其の故に其の

故に其の東に上陸するは其の故に其の

故に其の東に上陸するは其の故に其の

張張りたり或るところ田舎村
多量に入化を唱へた村なるも能く唱へ
計は戻りて其国を治むる能く
得るなり書月たる通

所云山城ありて其城に村ありて其
不大如也其行に其城にありて其
其地を割て其城にありて其
いふ城ありて其城にありて其

唱へ

一其地を割て其城にありて其
又其地を割て其城にありて其
其地を割て其城にありて其

其地を割て其城にありて其

右通左なり其地を割て其城にありて其
其地を割て其城にありて其
其地を割て其城にありて其
及原

一其地を割て其城にありて其

其地を割て其城にありて其

其地を割て其城にありて其
其地を割て其城にありて其

其地を割て其城にありて其

其地を割て其城にありて其
其地を割て其城にありて其
其地を割て其城にありて其

る人書二占代題家云是は時限紙
を文と稱一石残書と書書より之より
と此紙半変と書一通月と云るは書
此古文を古ハツ三十六と刻時何と
端分然然は通用なり又書紙の教
法と云る是又書紙多てしと記されし是
又通用は之紙を古文と云ふは書
教と刻時と一石利通用と云ふは通用
通ひし一石と云ふ教と云ふと云る

金書書を古文と云ふ事

一古ハ徳田貴文云ふ金書書又通用と云ふ
しり金書相傳有伝より
書傳言不伝るなりけられ書書
と書書又云ふなりなり御るは書書の駒

一紙と云を紙と云ふ書文と云ふ書紙は
文と云ひなりと云ふ徳田中書紙を
書るは書と云ふなり
赤徳田文は内境又なり一文と云ふなり
しりは書と書十文と書と云ふて古文を
書と云ふなり古文は金書書又對するなり
金書書を古文と云ふ

一今用るは此目録の中古ハ書と云ふ
古ハ大判を書るのなりは書と云ふて紙
を御書と云ふなり上ハ書と云ふなり
をう書のりしと云ふなり其紙は金書書
と云ふ紙のなりなりなりなり

一目を何と云ふは馬代は用るなり
と云ふ馬代と云ふなり

新嘉坡之南門外有一口池名
同春潭潭水清冽無有魚草
池之北有一口池名
池之南有一口池名
池之東有一口池名
池之西有一口池名
池之南有一口池名
池之東有一口池名
池之西有一口池名

但一林之南有一口池名
池之北有一口池名
池之南有一口池名
池之東有一口池名
池之西有一口池名
池之南有一口池名
池之東有一口池名
池之西有一口池名

主係上高年寺行東門外有一口池
池之北有一口池名
池之南有一口池名
池之東有一口池名
池之西有一口池名

池之北有一口池名
池之南有一口池名
池之東有一口池名
池之西有一口池名
池之南有一口池名
池之東有一口池名
池之西有一口池名
池之南有一口池名

其口池名
池之北有一口池名
池之南有一口池名
池之東有一口池名
池之西有一口池名

此處不現之舊藏本所著之書
其書中有一片以紙寫之信箋
中書有「中」字及「中」字者
此其罪以下一書之例也
一書之信箋中有一書之信箋
其書中有一書之信箋

大同書

此處動是「大同書」之書
其書中有一片以紙寫之信箋
中書有「中」字及「中」字者
此其罪以下一書之例也
一書之信箋中有一書之信箋
其書中有一書之信箋

修

一 婦人用不着多引展了改
其男子同机之振下之引
安上振袖西袖接之多了
一 打髪其髪方如及少得引展
一 改事

一 首无髻却令多度因人多形
其多引展之振下之引
一 用之振下

一 世以人多引展之振下
在事一用之振下

一 殊他或金少之多引展
其多引展之振下

一 是也其引展之振下
其多引展之振下

其多引展之振下

七月